

# 基本施策評価シート

基本施策最終評価

B

基本施策通し番号 31

基本施策 豊かな自然環境の保全と創出

構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	農山村の自然環境の保全	B
施策2	森林の保全	B
施策3	生態系、自然環境に配慮した水路の整備	C
施策4	河川の自然再生と親水環境の創出	C
施策5	化石の保全と活用	B

## 成果指標

指標	内容	平成32年度	平成29年度末実績	単位	平成29年度の成果の検証
地域で設置された自然環境に配慮した施設の設置数	農地や水、農村環境の保全活動により設置された生態系に配慮した施設の累積数	17	12	カ所	29年度の目標は達成できなかった
森づくりイベントの参加者数	森づくりイベントに参加した年間延べ人数	520	420	人	29年度の目標は達成できなかった
化石発掘体験事業の参加者数	大野市内で化石発掘を体験した年間延べ人数	5,000	3,365	人	大野市化石発掘体験センターオープンにより10月末から体験者数は増加したものの、10月の営業休止及びツアー客の減により前年度を下回る体験者数となった。
和泉郷土資料館での企画展の開催	化石に関する企画展の年間実施回数	1	1	回	「新恐竜王国ふくい—よみがえる大野の恐竜時代」展を開催し、1,709名が入館した。

## 後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林業に携わる人々の減少と高齢化の進展により里地里山、里川が失われ、山林が荒廃しつつある。</li> <li>・河川水量の減少などにより、河川敷に木々が生い茂り、河川環境が悪化している。</li> <li>・和泉地区では貴重な化石が多く発見されているが、中部縦貫自動車道などの工事によりさらに多くの化石が発見される可能性がある。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境を保全し育んでいくための取り組みや適正な維持管理、環境に配慮した河川整備</li> <li>・化石の学術や教育、観光の分野で保全と活用を図る</li> </ul>

## 社会情勢・市民ニーズの変化

市民の自然と触れ合う機会が減っている。また、九頭竜川や真名川沿いの集落、住民からの河川内の浚渫、伐木に関する要望は依然として多い。

## 現在の「現状」と「課題」

現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地の集積や、農山村の高齢化、少子化、人口減少等により、農林業経験も少なくなるとともに、身近な里地里山等に親しむ機会が減りつつある。</li> <li>・河川内の浚渫、伐木に関する要望は依然として多く、河川管理者へ要望している。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を保全サポートする人材の確保が求められる。</li> <li>・河川管理者である福井県は、予算の関係から十分な対応が図れない状況にあり、要望を強化する必要がある。</li> </ul>

## 基本施策の「成果」

成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森づくりイベントや森づくり活動に参加した人数は420人で、その内、どんぐり広場で実施した森づくりイベントには32団体から154人が参加し、どんぐりの里親事業では市内小学2年生を中心に213人がどんぐりの苗木育成に取り組み、身近な森林への関心を高め、森の大切さを認識した。</li> <li>・化石発掘体験者数は前年度を下回ったが、化石発掘体験センターの供用開始後は増加傾向にある。</li> </ul>
-----	---

## 改善点

- ・今後も県に一級河川内の雑木の伐採を働きかけるとともに、日本型直接支払交付金等を活用して地域水利施設の保全を推進する。
- ・化石発掘体験施設の市外の利用促進や子供たちの自然体験の機会を増やす取り組みが必要であり、市外の教育委員会及び小中学校へのちらし配布、県外でのイベントへの積極的な参加、夏休みや国体期間を活かした特別企画を開催するなど、昨年度整備した化石発掘体験センターのPRを強化する。